

CASBEE® 京都-新築

標準システム 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 京都-新築 (2011年版) 使用評価ソフト: CASBEE 京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	バインフィールド山科東野中井の上	階数	地上9F
建設地	京都府京都市山科区東野中井の上	構造	RC造
用途地域	商業、準防火	平均居住人員	55 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年4月16日
敷地面積	555 m ²	作成者	劉 忠剛
建築面積	434 m ²	確認日	2013年4月22日
延床面積	3,315 m ²	確認者	松下典央



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100% 超 ☆

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 91%

③上記+②以外の 90%

④上記+ 90%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

3 設計上の配慮事項		
総合 住宅として、改修・改装が容易に可能な建築計画を行い、より快適に長く住まえる居住環境の提供を目指した。また、日常メンテナンスや設備更新も容易な計画としている。		その他 現況の敷地地盤レベル差を活用し、造成等が発生しない建物計画を行う事で、周辺環境負荷の低減をはかっている。
Q1 室内環境 屋根・外壁に適切な断熱を行い、年間を通じて安定した室内温熱環境を計画している。また、内装材にF☆☆☆☆の認定材料を極力使用し、安全な空気環境づくりを目指した。	Q2 サービス性能 改修を見据えた構造計画、改装の容易な内装計画、耐用年数の長い材料の使用により長寿命化を図っている。また、将来の設備更新や日常メンテナンスなどの維持管理が行いやすい計画としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 京都市の景観条例に準拠した建物計画を行い、街並み形成や景観への配慮を行っている。
LR1 エネルギー 屋根を外断熱、外壁を内断熱とし、建物の熱負荷低減に努めている。 設備設計では、個別空調方式や、高効率の照明器具を採用し、省エネルギー化を図っている。	LR2 資源・マテリアル 解体、改修、更新時に躯体と仕上げ材が容易に取り外し、分別可能な計画としている。	LR3 敷地外環境 車路等の必要部のみアスファルト舗装等を行い、極力土舗装を残すことで浸透性を確保し、水資源保護等の周辺環境への配慮を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい